

## 6.3 教育方法のあり方

### 進捗状況報告

2007年度秋学期から実施した大学院生による授業評価を引き続き2008年度も春・秋両学期に実施し、授業内容・方法に反映する予定である。ただし、授業評価アンケートの回収率が低い点の改善が今後の検討課題である。「法務実習」も引き続き受け入れ先との連携を強めながら効果的な実施方法を検討していくこと、さらに、現行の司法書士事務所以外の受入先開拓を行う必要がある。

### 学内第三者評価

大学院生による授業評価を、授業内容・方法の改善に生かしていこうとしている。授業評価アンケートの回収率向上と法学研究科独自のインターンシップである「法務実習」について、より効果的な実施方法と受け入れ先のさらなる開拓の検討が期待される。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
大学院での授業評価アンケートは対象学生数が比較的少ないこともあって、回収率の低いことが少なくない。回収方法や設問のしかたに工夫をして、信頼性の高いデータを得ることで今後の改善に生かすことが望まれる。